めだかの学校だより

平成27年11月1日
第90号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL:0539-62-6691

校長訓話

第九十回　校長　菅原　歓一

横軸の時間

私の机の引き出しの中は乱雑を極めています。止まって動かなくなった腕時計、古い免許証やパスポート、あちこちから送られてきたCD、輪ゴムでとめた古い名刺の束、ビデオショップなど期限切れの会員カード、誰からか貰ったお守り、途中まで飲んでいた風邪薬、残金ゼロの貯金通帳、いくつものイヤホン、台湾に行った時の小銭の残りなどがごちゃごちゃ入っています。

「何の価値もないものを大切にしまっておく気が知れない」と家人に言われて、数年に一度は大決心して整理しようとするのですが、半日ほど引き出しの中をかき回したあげくやはり捨てられず元の位置に戻してしまいます。ガラクタの中に甘美な思い出があって捨てられないというものは一つもありません。いつ捨ててもいいものばかりです。ただこれらのものが一時は私の人生に関わっていたと思えば、ものそのものよりも関わっていた時の時間を捨てられないのです。引き出しの中で眠っている過去の時間の総体に愛着を感じるとでもいえばいいのでしょうか。ですから引き出しの中をきれいに処分してしまうと記憶喪失に似た症状に陥るかもしれないと思って整理できないでいます。

内山節の『時間についての十二章』に次のような一文があります。

「春が訪れたとき、村人は春が戻ってきたと感じながら、それを迎え入れる。去年の春から一年が経過したと感じるのは縦軸の時間のこと、もう一つの時間世界では、春は円を描くように一度村人の前から姿を消して、いま私たちのもとに戻ってきたのである。一年の時間が過ぎ去ったのではなく、去年と同じ春が帰ってきた。時間は円環の回転運動をしている。このような時間存在を、とりあえず私は縦軸の時間と対比させて横軸の時間と記した。

それは自然と強く結びついた暮らしと労働を営む者たちの時間世界である。春が帰ってきたから、村人も春の世界に帰る。回帰してきた時間とともに村人は一年前と同じ世界に回帰する。」

これを読んでから私は死ぬのが怖くなくなりました。私が愛惜していたのは都市の中で、ものと関わっていた縦軸の時間だったのですが、哲学者が語るのは自然と結びついた横軸の時間です。時間が回転しているとするならば、巡りくる春ごとに畑を耕す人は変わっても世界に終わりはない。人の生き死になど取るに足らないことのように思われ、永遠を感じて安らかな気分になったのでした。

いつのころからか私たちはあらゆることに結果を求められるようになりました。具体的な成果を出せない営みは無意味といわれます。経済的な価値を生まない行為は評価されません。そのために締め切りや期限が設けられ、いつも時間に追いかけられています。時間は一度流れ去って再び戻らないものと考えれば、いつも前のめりに走り続けなければなりませんが、時間は回帰すると考えれば、私たちはもっと落ち着いた生活ができるように思うのです。

めだかの学校90回の足跡
発行予定

めだかの学校伝言板

――第90回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校　長／菅原歓一
教　頭／水島加寿代
用務員／草地博昭
給食係／鈴木祐之・大久保陽・田村進治・中村明男
中村やす代・山中幸子・今村純子・池田タキ江
水村春江・渡辺三ツ子(チーフ)
※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

＜学舎＞静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
TEL：0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成27年12月4日（金）6：20PMより――
受　付／大場敬子・大橋町代・大杉昌弘・斉藤昭（後見人）
23期通年テーマ：『足元の歴史に学ぶ』
今回のテーマ：≪継続はちから　文化や歴史をつくる≫
＜時間割＞
●給食の時間～豪華年越しご膳～
●23期 開校90回 特別授業
＝めだかの学校23年を探る＝
めだかの学校はどのように設立されたか、
スライドと語りで…
コーディネーター：水島加寿代　補佐：草地博昭
旧きも若きもみんなで語り合おう！
9：30閉校

めだかたち

■「第13回全国まちづくり交流会in北海道蘭越町」に参加

2015年8月28日（金）～30日（日）

「第13回全国まちづくり交流会in北海道蘭越町」地方のチカラ発見伝！　～温泉三昧　出逢い語り～に参加。村松達雄メダカが手配してくれた飛行機で、榊原幸雄&鈴木正士&水島加寿代メダカは富士山静岡空港からFDAでひとっ飛び。2時間とかからずに新千歳空港に到着。他の地域から集まったお仲間と合流し、お迎えバスに揺られて約2時間で蘭越町に到着。「蝦夷の富士」と呼ばれる美しい羊蹄山と蘭越町の皆さんの笑顔が私たちを出迎えてくれた。

前夜祭会場にて、村松達雄、溝口久、菅原歓一、市原実メダカと合流。鮭のチャンチャン焼き、らんこし米のおにぎり、ホタテ焼き、アスパラ、枝豆とご当地グルメが食いしん坊の私たちを大満足させてくれたのはもちろん、地元の生徒さんたちのジャズバンド（Mt.ようてい・ジュニア・ジャズスクール）が素晴らしい生演奏で盛り上げてくれた。その夜の村松達雄メダカの口鼻の豪快な演奏にはまいったね。（笑）。早朝、JR蘭越駅に向かう早帰りの達ちゃんを宿舎の玄関で見送る。

2日目の午前中は、町内めぐりと自然ウォッチングの2班に分かれてバスツアー。ニセコ連邦に抱かれた蘭越町には7つの温泉郷があるのが特長。泉質を堪能したり、硫黄の臭いが立ち込める「大湯沼」で、茹でたて卵を食べたり…。特に、立派な育苗施設は、町が力を入れている「らんこし米」づくりへの意気込みを感じた。天然ミネラルをたっぷり含んだ清流、昼と夜の気温差という自然の恵みだけでなく、窒素肥料を抑えたきめ細やかな管理で、愛情を込めて作ったらんこし米は、低たんぱくで、冷めても美味！と北海道内でも高評価を受けている。

本大会講演は、「目指せ！日本の田舎町再生のお手本づくり!!」と題して、プロジェクトおおわに事業協同組合（青森県）副理事長の相馬康穫さんが登壇。約100億円の負債を抱えた町から、地域の交流センターを指定管理料0円で受託・運営し、「子供たちに夢や希望を与える町にしよう」と取り組んでいる。2007年に発足した「OH！鰐　元気隊」では、地元の小学生と一緒に町内清掃をしたり、野菜生産・販売の体験学習をしたり。小学生自身が東京へ出向き、名刺交換して地元産物のPRや販売、交流体験をするという。「町の批判は一切せず、ポジティブ発言しかしない約束」という隊員ルールが素晴らしい。前向きな子供たちのパワーが、大人たちへも良い影響を与えている。

その後は、蘭越高校の生徒さんによる「尻別川水質調査等の活動」、谷口敦哉さん（蘭越町）による「らんこし米のブランド化に向かって！」、トヨタ財団の喜田亮子さんが「国内助成プログラム」を発表。また分科会では「農」「資源」「人口」「文化」「自然」に分かれ、事例発表&意見交換が行われた。

続く大交流会では、蘭越町産のワインや農産物、生ハム、手打ちソバをはじめ、各地域から持ち寄られた特産品を囲み、大盛り上がり。最後は全員輪になっての阿波踊りで会場内は熱く、強く、全国各地の心の絆を結び合った。最後に、改めまして蘭越実行委員会の皆様、本当にお世話になりました。お陰で素晴らしい三日間でした！

■宮島に舞う～安芸国一宮　厳島神社舞楽奉納～

私たち天宮神社十二段舞楽保存会は去る10月10日（土）、広島県・安芸の宮島「厳島神社」で、国指定民俗文化財「天宮神社十二段舞楽」を奉納しました。

舞楽は古来仏教とともに日本に伝えられ、中央では雅楽として発展し、世界無形文化遺産に指定されており、また、地方にも伝播し、遠江国では森町に「遠州一宮の舞楽」として今も伝えられています。

今回の奉納は、厳島神社と天宮神社の御祭神が同じ（宗像三女神）であり、双方の神社に大阪四天王寺ゆかりの舞楽が伝えられており、そんなご縁から私たち天宮神社が申し入れ実現が決まりました。

天宮神社では舞楽の伝承を天社鼓（てんしゃこく）と呼ばれる若衆が行ってきましたが、今から40年前に舞楽保存会が結成され、舞の指導など支援をするとともに、全国で舞の奉納や披露をして参りました。昔は、夜を徹して祭り前の期間に稽古をしてきましたが、時代とともに練習時間が少なくなり、伝承の難しさを感じていました。こうした奉納を通じ会員や地域の人の意識を高めるとともに、全国に「遠州森町の舞楽」を知っていただきたいと今回奉納をすることとになりました。

奉納した舞は、両神社にともに伝わる演目「太平楽」「陵王」「納曽利」の3つで、太鼓などの楽器や衣装をすべて森町から運び込みました。

9日夜森町を出発、夜行バスで現地に向かい、早朝に宮島に着き、正式参拝の後、午後1時からあの赤い大鳥居を望む国宝「高舞台」で奉納を行いました。森町では今年合併60周年を迎え、また、保存会も結成40周年を迎えます。この記念すべき年に一生に一度、いや千年に一度の夢の実現となりました。（村松達雄メダカ）

■「ふるさと大使全国大会2015」にて

7月ごろのこと、「草地くん、若者代表として話してよ～」と、かがり火編集長、今回のめだかの学校校長先生の菅原さんから電話がかかってきた。どんな会でどんな内容なのか分からずにパネリストを引き受けてしまった。具体的な内容を知ったのは、チラシが届いてからだった。

10月24日（土）、タイトルは「ふるさと大使全国大会2015」。東京のなんと法政大学のキャンパスで開かれるとのこと。しかも20周年記念大会である。大学といえば、地元の学校しか出入りしていない僕にとっては、東京にある大学の中で話ができるだけで、テンションがあがった。また、錚々たるメンバーがパネリストを務めるということで、すこしばかり緊張する中で、すでに30代も中盤の僕が、若者代表として話をしてきた。

今回の肩書は「若者いわたネットワーク顧問」。「いわたゆきまつり」をメインイ

ベントにしている18歳～35歳までが所属する、地域おこし団体の活動を通じて若者による町おこしのPRだ。

まわりに座るのは、木皆町や十日町、青森など、雪の多いところの方ばかり。「雪の降らない街でゆきまつりを～」という話をしたところ、皆さんキョトンとしておられた。

1人7分という決められた時間を、忠実に守りすぎてしまい、肝心の若者の活動を紹介できなかったが、遠州地域に「学生じゃない若者」を中心にした団体が町おこしをしているというメッセージは、伝えることができた。また、機会があれば、次は時間を超過して、怒られてもいいから、しゃべり続けることを誓い、帰りの新幹線はぐっすり寝て、落ち着く磐田駅へ。いい刺激と仲間ができたことが、今回も財産になった。

（草地博明メダカ）

■福田の町を歴史ウォーク

「織物の町」として一時代を築いた福田の町。勢いは大分衰えたものの、遠州地域では今でも機屋さんの数は一番です。この福田の町の織物産業の歴史を紐解きながら12月5日（土）に街歩きを企画しています。案内するのは地元福田の歴史好きな有志「福田町史懇親会」のメンバーです。現在でも国内生産の95％を占める福田の代表的織物「別珍・コールテン」の生みの親、寺田家の彦太郎・彦八郎親子の生家も初めて一般に公開されます。

他にも、このウォークでなければ見られないところが満載の盛りだくさんの歴史ウォークです。晩秋の福田の町を歴史に思いを馳せながら歩いてみませんか？

お申し込みは11月5日から。（福田中央交流センター電話：0538・55・1111）大島たまよメダカがご案内いたします。

■しなんば 秋 里山コンサート

天竜区春野町長蔵寺のオープンガーデンで11月14日（土）12時から15時まで、秋の実り特製里山弁当つきの、「UTAKA&WATARU」のコンサートがあります。会費3000円。お申し込みは名前、住所、連絡先をかいてFAXかメールで。

FAX：053・986・0133

メール：k-andou@pop16.odn.ne.jp

■町並と蔵展2015秋

第21回町並みと蔵展」が11月21日（土）22日（日）の両日、森町役場近くの本町～新町の市街地で開催されます。

今年は、森町合併60周年の年であり、今回は「森町合併60周年」をテーマに行われます。21日午後1時から60周年を振り返り、「若者に伝えたいこと 次世代に残さなければならない物」と題した講演が本町・西光寺で行われます。

新たに寺田家土蔵が公開され、併せて3つのお蔵で資料展示が行われ、約100店舗が森町の町並みを舞台に、特産品などの販売を行います。

（村松達雄メダカ）

『人・ひと・ヒト…だより』

●地球は広い　そして深い

自然も、そこに暮らす人も、限りなく…。紅海は藍の色、スエズ運河は若草色、地中海は深いブルーの海、その向こうには多くの難民が今日も・・・・。

地球一周海の旅の船、ギリシャより写真はスエズ運河航行中に見た朝日です。

一枚のAIRMAILが届く。差出人はfrom＝BeSSho浜松市北区の別所慶則元メダカかも。いや～なつかしい。

●長野県天竜村の関京子メダカから、久しぶりの手紙。めだかの学校に出たい、出たい、と思いながらいつも風邪ひいて、八十歳の大台、後継者もいない高齢者ばかりの村なので、今もがんばっていると。関京子メダカリーダーの『祭り街道弁当夢と感動プロジェクト』主催の、新しい年を祝う、祭りと食の融合『祭り街道弁当フェアー』が、27年11月14日（土）10時～13時半まで、道の駅信州新野仙石平、多目的ホールで開かれる。限定百五十食、参加費3500円、申し込みは10月30日必着。申し込みは間に合わないが、物産展があるので、ぜひお出かけを！。

●食といえば、浜松市の古橋利雄メダカから、10月19日アクト浜松コングレスセンターで、『未来を開く創造産業IT農業と六次産業化』静岡県ニュービジネスフォーラムin浜松があるという御案内をいただき、磐田市の村田徳治、大島たまよ、榊原幸雄の三メダカ出席。「川根にて蕎麦をはじめ多品種の栽培をする農場ファンドの立ち上げ」「静岡県内で短期間に90haの農場を運営する受注方式」「808ファクトリーの完全人工光利用型の野菜工場（1400㎡）年間約30万株」「富士通、オリックス、増田採種場3社の大型野菜工場計画＝磐田市」の4人の発表。TPPなど日本の『農ある風景』が時代と共に変化を求められているのかも知れない、と。

●こちらは地域の食材を積極的に取り入れているレストラン「ハーモニー」オーナーシェフの足立久幸氏。小山町に単身赴任中の溝口久メダカ、磐田市の今村純子メダカ、榊原幸雄メダカ多くのメダカ生の共通友人。静岡県が県産の食材を積極的に活用、食文化の振興に貢献している料理人や菓子職人に「ふじのくに食の都づくり仕事人」として表彰している。平成22年～26年度に表彰された人は396人。その中で特別な「the仕事人 of theear」を5年間毎年受賞しているのは県下で2人だけ。なんとその一人。12月になると、磐田特産の『えび芋料理』が始まる。地域の旬の食材を積極的に取り入れ生かしたメニュー。こちらもまた『農のある風景』の一コマですね。「海老芋生産者の伊藤英雄メダカさん、30人限定、めだかの学校主催『海老芋料理特別講座』をハーモニーでやりませんか？」とは、バラメダカ。

●習志野市の市原実メダカ。めだかの学校は自由なスタイルでいいですね。決して強制しなくて参加したい人が集まる、そんな雰囲気が長続きの条件かも。いい例が「全国まちづくり交流会」。この会もだれが主催か、会員にはどうしてなるのか、いまだ分からない会、だって。何人かのまとめ役はいます。とはバラメダカ。

●来年3月に遠州森町の町長選が行われます。めだか生の榊原淑友メダカと太田康雄メダカと元県会議員の3人が立候補に手を上げました。共に頑張って欲しいですね。

《新入生紹介》

●石川由佳里さん、中日新聞報道部記者。8月1日付で飯田市から浜松市の中日新聞東海本社へ転勤。推薦人は日比野雅彦メダカ。

●戸田喜久雄さん、島田市。無農薬、無化学肥料で米を五反ほど作っている、と。橋本詔次メダカから、「めだかの学校に行くといいヨ」と入学。推薦人橋本詔次メダカ、池谷俊裕メダカ。

× × × ×

今回は紙面の都合でこれまで。めだか春秋はお休みです。

トピックス

■第17回遠州横須賀街道　ちっちゃな文化展

10月23日（金）～25日（日）遠州横須賀・城下町を舞台に「町並みと美の晴れ舞台・ちっちゃな文化展」が開催されました。今年は誰の行いが良かったのか？3日間とも穏やかな晴天に恵まれ、大勢のお客様にご来横いただき、芸術の秋の一日を楽しんでいただきました。

めだかの学校の生徒たち、鈴木眞弓メダカは初回から連続の出展、町のど真ん中の古民家で「マクラメ」の展示、今年の作品はついに会場の家を飛び出して増殖中、そのひときわ個性的な作品と展示方法は、行く人たちの目を引いていました。

大橋町代メダカ、横須賀の繁栄を今に伝える廻船問屋「清水家ご本宅」お座敷で「書」の展示、重厚なお屋敷の会場の間取りをうまく生かしての展示、また訪れたお客様にその場で希望の「字」を書いてくれていました。

横須賀というちっちゃな城下町、そして固有名詞を呼び合えるくらいの人間関係&お付き合い、そういう「ちっちゃな」つながりで成り立っている「ちっちゃな文化展」、めだかの生徒皆さんを始め、本当に多くの人たちに支えられながら、大盛況のうちにお開きとすることができました。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

鈴木武史メダカ

■浜松花蝶ちん10周年記念浜名湖ちんどんフェスティバル

藤田潤吉・久枝メダカ率いる浜松花蝶ちんが10周年を迎え、11月23日（月・祝）浜松市雄踏文化センター大ホールで、午後1時30分から、富山・愛知・神戸・焼津など各地のチンドンマン80人が勢ぞろいして『浜名湖ちんどんフェスティバル』が行われます。

ご存じ潤吉座長、がんと闘いながら頑張ってますヨ。ぜひ、お出かけを！待ってま～す。

バラメダカ

■事務局だより

今日も秋日和、私の住む磐田市北部の山あいでは、次郎柿がだいぶ色づきました。めだかの学校だよりが届く頃には、店頭に並んでいることでしょう。農家の方に聞いたら、「今年はどこの家もいい出来だよ」とのこと、ぜひ味わってください。

さて第89回のめだかの学校は、平成27年9月4日、第23期最初の学校。通年テーマは『足元の歴史に学ぶ』。それを受けて、89回のテーマは「むかーし　むかーしそのむかし」。校長は松島季実代、教頭内田貴久、用務員高田正人、先生は考古学に詳しい大島たまよ先生。科目は歴史「日本のあしもと古事記から学ぼう」。松島校長の意向もあって、「古事記」を松島校長が紙芝居で語り、それを受けた形で大島先生が「古事記」からみた神話の中の日本の神々や、その時代背景などを解説。校長、教頭、先生、職員会議とは別に集って話し合って、その息もぴったり。雰囲気は写真で。私語飲食禁止の次期三役発表。校長は菅原歓一、教頭水島加寿代、用務員草地博昭。引継ぎに菅原歓一メダカ欠席のため代役を榊原淑友メダカがする。自せん他せんの給食係。固定しはじめているので新しい人は、めだかの学校の2本柱の一つでもあるので、ちょっと早めに登校して手伝って欲しいものである。

第90回めだかの学校の職員会議を、10月8日（木）午後7時から学舎で開く。第90回は12月4日、校長菅原歓一、教頭水島加寿代、用務員草地博昭。菅原校長は東京と遠いので欠席。教頭、用務員、14人の職員で話し合う。90回は節目であり、菅原校長も『継続』のようなことを言っていたので、テーマは『継続』。めだかの学校の誕生の頃のことを知らない生徒多いので、昨年森町で開催した第11回全国まちづくり交流会でめだかの学校を説明したスライドがあるので、そのスライドを見ながら語ってもらい、あとはそれぞれの期の生徒にしゃべってもらったら…」ということに。進行役は水島教頭。もう一つ、『めだかの学校10年の足跡』を発行しているので、追加して『23年開校90回の足跡』を作ることに決まる。「第90号めだかの便り」と同封して送る予定だが、まとめが難しく、間に合いませんでした。開校日にはなんとか…。

■第23期の受け付けています。

第23期のめだかの学校は、平成27年9月1日から平成28年8月31日までです。継続手続きのなされてない生徒は今回の発送をもって名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。新しく入学を希望する方がいましたら、事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい。

いつもお手伝い頂いています鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、大島たまよメダカ、石野省三メダカ、水島加寿代メダカ、間渕亮太メダカ、田村進治メダカ、草地博明メダカ、村松達雄メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、2月1日予定。締切りは、1月20日、みなさんの日頃の活動、イベントの開催など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》

間渕亮太090・5009・0986です。

（メールの方は割付の関係もあるのでご一報を。）

■めだかの学校の事務局

〒438・0105静岡県磐田市家田529番地20　榊原幸雄方　TEL 0539・62・6691（FAX同じ）

※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・7730　開校日の午後4時以降のみ使用可。

携帯 080・1612・9130